

# 室内環境学会会長就任にあたって

(社)国際環境研究協会

小野 雅 司

この1月から、室内環境学会会長を勤めさせていただいております。就任早々ご挨拶すべきでしたが、半年近く経ってのご挨拶ということで会員の皆様には大変申し訳なく思っております。以下に、これから2年間の学会運営について私の考えを述べさせていただきます。

立候補にあたっても申し上げましたが、室内環境学会は発足から10数年が経ちましたが、その間の歩みは可もなく不可もなく・ほどほどといったところでしょうか。もちろん、歴代会長、役員、運営委員、そして会員諸氏の努力を否定するものではありません。むしろ、努力があったからこそ現在の学会があると言っていいでしょう。しかし、このままでは、いずれ会員数減少に見舞われるのは避けられないと思います。直接会員増加につながるかどうかわかりませんが、以下のような活動を進めていきたいと考えています。

## 1. 室内環境学会の運営体制

昨年末の総会で会則の改正が承認され、見切り発車でスタートしていた、新しい運営体制（会長、副会長を中心とする役員会主導の運営）へと正式に切り替わりました。これまで決定権のなかった役員会にも決定権を与えていただきました。より責任のある限られたメンバー（役員会）での即応性の高い決定システムで、新たな課題に向かっていくこととなります。役員会での決定事項は、評議員会（旧運営委員会）へ諮るとともに、総会で承認いただくこととなります。しかし、実際には、評議員会、総会は年一回の開催です。そのため、役員会での審議内容に関しては、学会ホームページを通して速やかにご案内することにします。併せて、評議員だけでなく会員の方々からもご意見をいただき、役員会へ反映させていくことを考えています。

## 2. 委員会等の活性化

同時に、委員会を整理・統合しました。新たに設けられた学術委員会は、研究テーマごとに設置される分科会を統括します。具体的には、総会・発表会で分科会が中心となった特別セッションの企画・開催を計画しています。そのほか、出版委員会が所管する学術誌、事業委員会が主催する学術集会、などとも緊密な連携をはかっていくこととなります。もう一つ、社会連携委員会は旧社会連携委員会と国際連携委員会が統合したもので、前執行部時代から準備が進められている国内外の他学会との連携をはかっていくこととなります。イベント的な交流だけでなく、真の研究交流へ進化させていきたいと思っております。

分科会についても、名だけでなく実のある分科会を目指します。そのため、2年という期限を設ける（再申請・継続は可）とともに、総会・研究発表会での報告を義務づけます。これまでのポスター発表だけでなく、学術委員会と連携して特別セッションの企画・開催を進めていきます。

## 3. 学会標準の推進

学会標準の策定へ向けて、昨年から今年にかけて大きな動きがありました。標準化委員会微生物WGが中心となって、空気清浄機評価法の学会標準の基となる試験法が完成しました。今後、標準化委員会での審議を経て学会標準として公表されることとなります。これと並行して、空気清浄機検定協会が設立されました。理事

長，理事には室内環境学会で重任を努めてきた3名が就任しています。今後の，学会と協会との協議によりますが，学会が策定した標準法の実施が待たれるところです。

学会標準については，空気清浄機を第一弾として適宜対象をひろげていくことになります。

#### 4. 学会員との情報交換

ホームページの充実をはかり，学会（役員会）からの情報提供だけでなく，会員の方々からの意見を学会運営に反映させる努力を行っていきたいと考えています。皆様方からの積極的なご意見をお待ちしています。

今後とも，よりよい学会を目指して努力してまいります。すべての会員の方々のご協力をお願いします。